

Round 2

レースレポート

■開催概要

- 大会名称 : 2025 SUZUKA CHAMPION CUP RACE Round2
- 主催 : グループ・オブ・スピードスポーツ (GSS)、名古屋レーシングクラブ (NRC)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : ARC、AASC、ARCN、KRHC、OCCK、チーム淀
- 後援 : 鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会 (FEクラス)
- 競技 : JAF公認 準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : 総参加台数/185台
 - Yaris Cup.....58台
 - Yaris Cup NOVICE.....20台
 - v.Granz17台
 - VITA33台
 - FIT 1.5 Challenge Cup17台
 - フォーミュラEnjoy.....22台
 - BMW & MINI Racing18台
- 開催日 : 2025年5月10日(土)・11日(日)
- 天候・路面 : 10日(土)曇/ウェット・11日(日)晴/ドライ



★レースリザルトはウェブサイトでご覧いただけます
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2025 SUZUKA CHAMPION CUP RACE Round3
- 開催日 : 2025年7月12日(土)・13日(日)
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : スーパーFJ(2レース)、FIT 1.5 Challenge Cup、VITA・v.Granz (MEC120)、フォーミュラEnjoy、Formula Regional Japanese Championship (FRJ)、マツダファン・サーキットトライアル (MFCT)



10日はウェットコンディションに悩まされたが、11日は天候に恵まれレース日和になった

名称を変えて生まれ変わった入門レースの第二章！ 185台がエントリーして鈴鹿フルコースを疾走。

鈴鹿サーキットで参加型入門レースが始まったのが1968年のこと。1996年に「鈴鹿クラブマンレース」と名称を変え、長期間に渡って親しまれてきた。

そして2025年。約30年間続いてきた鈴鹿クラブマンレースから、名称を新たに「SUZUKA CHAMPION CUP RACE」と変えて生まれ変わった。

5月10日（土）、11日（日）の2日間をかけて開催されたのが、鈴鹿チャンピオンカップレースの第2戦だ。第1戦と同じく、VITAやv.Granzといった馴染み深いクラスのほか、「TOYOTA GAZOO RACING Yaris Cup 2025 関西シリーズ第1戦」、「BMW & MINI Racing 2025 Round.2（第3戦/第4戦）」も実施された。ヤリスカップやBMW & MINI レースでは、参加台数の多さもさることながら、推しのチームやドライバーに声援を送るべく、たくさんのファンが来場。11日（日）は一部クラスにおいて、グリッドウォークも行われグリッドに並ぶマシンやドライバーの姿を写真に収めるファンの姿が見られた。

10日（土）の公式予選はウェットコンディションとなり、ほとんどのマシンがレインタイヤで走行。難しい路面がチーム関係者を悩ませたが、一転して11日（日）は初夏を思わせる陽気となり、路面もドライコンディションに。前日とは打って変わって、今度はスリックタイヤで各ドライバーが果敢に鈴鹿サーキットフルコースでの走行を楽しんだ。

第3戦は7月12日（土）、13日（日）の開催。鈴鹿クラブマンレースの頃から恒例となっている「MEC120」を2025年も実施する。耐久レースでは毎年、ドライバー交代や給油のタイミングが勝敗を分けるため、チーム間の作戦、駆け引きも見もの。今年もアツい夏の耐久レースになるに違いない。



フォーミュラEnjoyのマシン「FE2」は、2025年でデビューから10年の節目を迎えた

レースレポート

■Yaris Cup～TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2025 関西シリーズ第1戦

参加台数58台と大盛況でレースは開催。ポールポジションの千葉翔太がホールショットを奪う展開で幕を開けるが、千葉、神谷裕幸、内藤章太、行和久、KAKEYAN、川上真人、杉山博紀が先頭集団を形成。神谷を先頭にファイナルラップへ入るが、行が逆転でトップチェッカーを受けた。CVTクラスの優勝は堀内秀也だった。



4番グリッドの行和久がファイナルラップで見事な逆転劇を披露した



CVTクラスの優勝は堀内秀也。2位に目出し帽、3位に今井孝の上位になった

Round 2

レースレポート

■v.Granz

開幕戦のウィナー、富田星羅がポールポジションを獲得。2番グリッドは大崎達也、関正俊と続くグリッド順。大崎がホールショットを奪う好スタート。富田が続く。マシントラブルから長谷川睦がS字で車両を止め、セーフティカーが導入される。セーフティカーランが解除され、3周目に入る。トップの大崎、富田、関の3台が第1集団を形成。4番手は吉村一悟とOOKA、入谷敦司が争う。入谷は4番手に浮上。大崎と富田のトップ2は3番手の関を引き離していく。大崎はトップを安定して走り続ける。2番手の富田は大崎との差を詰められない。レースはそのまま大崎が勝利。開幕戦で2位だった雪辱を果たした。



優勝の大崎達也は前回レースと同じくスタートに成功。そのままトップを守った



優勝の大崎達也は終盤でもペースを維持した。2位は富田星羅、3位は関正俊と続いた

Round 2

レースレポート

■VITA

ポールポジションはHIROBON、そして大八木龍一郎、上田裕司が上位グリッド。ジェントルマンクラスは総合10番グリッドの鍋家武がトップだ。2番グリッドの大八木がホールショットを奪い、上田、HIROBONと続く。HIROBONは2周目でトップへ立つ。その後、コースアウトしたマシンがあり、3周目からセーフティカーランになる。トップはHIROBON、大八木、上田、中島僚斗、坂野貴毅の順。ジェントルマンクラスは11番手の木村一郎がトップだ。4周目でセーフティカーランが解除されるが、またもや2台の接触があり2回目のセーフティカーランが導入される。残り2周で解除され、ファイナルラップでHIROBONと大八木がまさかの接触。上田は一気にトップに出ると逃げ切りに成功して、開幕から2連勝。ジェントルマンクラスは木村が優勝した。



上田裕司はトップ2を追いかけて続ける粘り強い走りで優勝を呼び込んだ



逆転で連勝を決めた上田裕司。2位は中島僚斗、3位表彰台は坂野貴毅だった

Round 2

レースレポート

■VITA_ジェントルマンクラス



総合10位の木村一郎がジェントルマンクラスで優勝。2位は鍋家武、続いて3位に大橋孝行となった

レースレポート

■FIT 1.5 Challenge Cup

ポールポジションは林陽介。2番グリッドは大社宥雅、林大輔のグリッドだ。レースは大社宥雅がホールショットを獲得。林大輔、林陽介、開勇紀が続き4台がトップ集団になる。トップの大社は徐々に逃げ始め、西田拓矢もトップ集団に加わると、2番手の林大輔以降のバトルが激しくなっていく。2番手以降のバトルに乗じて、大社のトップは単独状態だ。西田はどんどんと順位を上げて2番手になる。林陽介は2番手に順位をあげるが、大社との差は大きい。だが、林陽介はペースを上げ続け、3秒以上差があった大社に迫る。大社、林陽介、西田の三つ巴でファイナルラップへ。トップをキープし続けた大社だったが、シケインの立ち上がりで西田はトップへ。大社を0.057秒上回り、西田が優勝。3位は林陽介となった。



ファイナルラップで大逆転を決めて優勝した西田拓矢



西田拓矢がファイナルラップで逆転優勝。2位には大社宥雅、3位の林陽介が表彰台に立った

レースレポート

■BMW & MINI Racing 2025 Round.2

BMW M2 CSR、MINI JCW、MINI CPSと3つのクラスを混走で行なわれる。午前中に行われたレース1では、M2 CSRのトップに石井一輝、中澤卓也のグリッド順。JCWのトップは井本大雅、CPSのトップは豆野天星のオーダーでレースがスタートした。M2 CSRはそのまま石井が完勝。JCWは井本、CPSは豆野がそれぞれクラス優勝を果たした。午後のレース2は、M2 CSRを中澤、JCWは井本、CPSは白戸次郎がそれぞれ優勝を決めた。



レース1はM2 CSRクラスの石井一輝がポールtoウィン。まさに完勝と呼べる内容だった



M2 CSRのレース2は中澤卓也が優勝。2位に石井一輝、3位は平家輝文となった

Round 2

レースレポート

■BMW & MINI Racing 2025 Round.2



レース2のJCWは、井本大雅がレース1に続き連勝。吉田一球、いとうりなの順だった



レース2のCPSで優勝したのは白戸次郎。2位に豆野天星、3位はジュンクーパーとなった

レースレポート

■フォーミュラEnjoy

ポールポジションは吉田英翔、Bagnall Alexander、3番グリッドはマイスターズ・カップの前田公孝、太田慶佑、中島一郎、樋尻勝利の並び。レースは吉田がトップをキープすると、これに3番グリッドの前田公孝が続く。オープニングラップでコースアウトを喫したマシンがあり、早くもセーフティカーランになる。吉田をトップにセーフティカーランが解除されると中島、前田、太田、中島崇と続く。トップの吉田は2番手を大幅に引き離してリードを広げる。レースは5周目。その後、再びコースアウトしたマシンがあったため、2回目のセーフティカーが導入される。残り2周で解除され、トップの吉田はそのまま逃げ切って2連勝。2位は中島、3位はマイスターズ・カップの前田と続いた。



ポールtoウィンの吉田英翔は他のドライバーを寄せ付けない速さだった



優勝した吉田英翔は前回レースに続く連勝。2位に中島一郎、3位は前田公孝だった

Round 2

レースレポート

■フォーミュラEnjoy_マイスターズ・カップ



マイスターズ・カップの表彰。優勝は総合でも3位に入った前田公孝。クラス2位は安田知弘、3位は長谷川英裕

Voice of Pick up Driver & Team

この日、キラリと光った
ドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

開幕戦に続いての優勝でVITA、2連勝。

上田 裕司 選手 (PHOENIX®ARD&萬雲塾)



Q: 決勝レースを振り返っていただけますか

「セーフティカーの入る可能性が高い決勝になると予想していました。早めに前に出られるように、3~4周目でピークにもってこられるタイヤ圧で臨みました」

Q: 3番グリッドからスタートして、レース中も3番手を走る時間が長かった

「無理をしないで確実にポイントを取りたいとは考えていました。ただ、HIROBON選手や大八木龍一郎選手は想定より速かった。あの2人の速さを改めて感じました」

Q: 今日勝って、VITAクラスで連勝ですね

「良い形でシーズンを戦えていると思っています。確実にポイントを取っていききたいし、私個人としてももっと練習します！」